



▲大橋会長から山本教育長に手渡される「素数竹ものさし」

人材育成に「素数竹ものさし」寄贈

甲賀市商工会

甲賀市商工会工業部会から6月26日、会員企業で製作されている「素数竹ものさし」一千本が市教育委員会に寄贈されました。

このものさしは、2、3、5、7といった素数のところにしか目盛がなく、素数以外の数値を測るには目盛の差を利用するなど工夫が必要のため、思考力や計算力が身につくといわれています。

山本教育長は「便利なものが普及している現在、あえて不便なものを使い、考える楽しさを実感できる教材」と感謝を伝えました。

摘みたてのブルーベリーを味比べ

甲南第三小学校

甲南第三小学校全校児童48人が6月27日、上野川営農組合が運営する観光ブルーベリー園「宮ベリー」に招かれ、熟した実を味わいました。

子どもたちに地元で栽培される「宮ベリー」の美味しさを知ってほしいと同園が毎年実施しています。

この日は、栽培の苦労や工夫、ブルーベリーの特徴などを学習した後、草引きや虫取りの作業も体験しました。ブルーベリー摘みでは、両手いっぱい摘んで頬張ったり、「すっぱい」「すごく甘い」と、味比べをしたりして楽しんでいました。



▲ブルーベリー園の虫取りをする児童

軽トラとチェーンソーで山をきれいに、町を元気に!

「甲賀木の駅プロジェクト」発足

森林の環境保全と地域振興を目的とした「甲賀木の駅プロジェクト」の発足式が6月10日、甲賀町の大鳥神社で行われ、神社敷地内で切り出した間伐材の初出荷が行われました。

このプロジェクトは、林業研究グループ「甲賀愛林クラブ」と大原自治振興会の有志が運営委員会を立ち上げ始動したもので、地元の山の間伐材などをチップ工場に出荷した登録者に、運営委員会が買い取り額に上乗せした額の地域通貨「モリ券」を発行するという仕組みです。

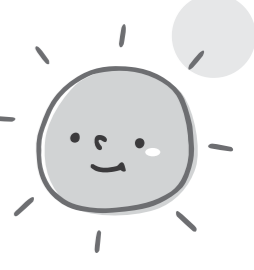
運営委員会は、新たな出荷者や「モリ券」が利用できる町内店舗を増やす活動にも取り組まれ、森林資源を利用した地域の活性化につなげたいと期待を膨らませています。



▲「甲賀木の駅プロジェクト」で初出荷される間伐材

問い合わせ/竹中島真博(委員長) ☎88-4312

元気なまちかど



過去最多の113人が挑戦

第7回甲賀流忍者検定

忍者の知識などを問う「第7回甲賀流忍者検定」が6月15日、忍の里マララで開催され、県内外から過去最多の113人が受験しました。忍者の里を全国に発信しようとして平成20年から市観光協会・実行委員会が主催しています。今回から新たに上級が設けられ、市内の中心部を見学した後、城の攻略法をレポートにまとめる二次試験が取り入れられました。午後からは、歴史学者の磯田道史氏を講師に「甲賀忍者研究のその後」と題して講演会が行われ、参加者は、甲賀忍者が活躍した時代に思いを馳せていました。



▲忍者のコスプレで検定に臨む受験者

音楽を通してアフリカ・ジンバブエの子どもたちと交流

貴生川小学校

全国30公演を行う「ジンバブエコンサート」が6月17日、貴生川小学校で開催されました。全校児童を前に、アフリカ・ジンバブエの子どもたちを中心としたグループ「ジャナブルジュニア」が、ジンバブエ各地の歌や踊り、伝統楽器の演奏を披露し、初めて聞く軽快なリズムに、児童は誰もが夢中になって手拍子を送っていました。公演では日本の歌も披露されたほか、最後は児童もステージに上って踊りを楽しみ、交流を深めました。



▲軽快なリズムでジンバブエの踊りを披露するメンバー

身を守る方法を学ぶ

安全水泳体験会

湖南甲賀水泳協会が主催する安全水泳体験会が6月22日、水口スポーツセンターWell・Beで行われ、市内小学生11人が参加しました。職員による寸劇で水難事故に遭った場合の対応を学んだ後、実際に流水プールで服を着たままの浮き方を練習したり、ペットボトルやビニール袋を浮き具として使ったりし、身を守る方法を学びました。子どもたちにとって水遊びは、楽しい反面、危険と隣り合わせであることを実感する機会となりました。



▲着衣水泳を体験する児童